

吉野谷村瀬波における世帯構成並びに年齢別人口構成からみた 自然観および自然対応への変化

沼 尾 周 一 中部大学附属春日丘高校

ON SOME CHANGES OF DWELLER'S FEELINGS AND CORRESPONDENCE TOWARD NATURE WHICH ARE INDICATED BY HOUSEHOLD COMPOSITIONS AND POPULATION COMPOSITIONS BY AGE IN SENAMI, YOSHINODANI, ISHIKAWA PREFECTURE

Shuichi NUMAO, *Haruhigaoka Highschool Affiliated With Chubu University*

1960年代以降、農村の都市化に伴い農村の民俗が消滅あるいは急激な変化をとげてきたといわれている。特に高度経済成長期にあっては、労働市場が拡大したことにより、向都離村現象に伴う若手労働力の大量離村が農村社会に大きな変化をもたらすことになった。この現象は、挙家離村という形と共に都市部への人口流出という状況を生み出す結果となってあらわれ、農村の過疎化という事態を生み出すことにもなった。

農村の都市化により、農村社会内にも農業離脱、農地の転用並びに宅地化、兼業農家の増大という状況が見受けられるようになってきた。更に、テレビを含む家庭電化製品・農業機械・乗用車等の普及、生活費や高学歴化に伴う教育費の上昇などによって、零細な経営規模による低い農業収入だけでは、生活を維持することも厳しい状況となり、農業以外の収入にも頼らざるをえなくなってきた。

瀬波においても現金収入を得るために、兼業を通じて農業以外の所得を増やし、生産や消費という両面にわたる支出の増大に対処せざるを得なくなってきた。20～40才代の男性は、主として地方公務員・教員・会社員・農協職員・建設関係の従業員などとして農業以外の職業に従事しているのが現状である。そのため、農業を従とする第二種兼業農家が多くなり、農業労働が老人や婦人の手にゆだねられる事態を招いた。

ところで、ここで問題となるのは、瀬波の世帯数や人口の減少並びに年齢別人口構成や世帯構成の内容である。以下に、瀬波の世帯数・人口・世帯平均、年齢別人口構成、世帯構成を示すことにする。

第1表で明らかなように、わずか7年間で世帯数5戸、人口28人、世帯平均0.24人がそれぞれ減少しているということである。世帯が減少した理由としては、親の死去に伴う世帯の消滅、挙家離村、都市部に居住する子の世帯への親の転出

表1 瀬波の世帯数・人口・世帯平均

年 月	世帯数	人 口	世帯平均
1980年12月	48 戸	170 人	3.54 人
1987年 8月	43 戸	142 人	3.30 人

表2 瀬波の年齢別人口構成

年 令	1987年	
	人 数	%
80才以上	14 人	9.8%
70～79才	21 人	14.7%
60～69才	29 人	20.5%
50～59才	19 人	13.4%
40～49才	16 人	11.3%
30～39才	9 人	6.4%
20～29才	12 人	8.5%
16～19才	5 人	3.5%
15才以下	14 人	9.8%
不 明	3 人	2.1%
合 計	142 人	100.0%

などがあげられる。第2表では20才代の青年が少ないことがわかる。このことは、若い労働力が都市へ流出したことを裏付けるものである。

次に第3表を分析してみると、以下のような結果が認められた。ここでは、二世帯世帯が全世帯の44.2%を占めているが、19世帯のうち15世帯の親夫婦・片親が60才以上である（親世帯と子女・片親と子女14世帯のうち7世帯は30才以上の適齢期を迎えている継承者が居住している）。しかも、親夫婦と子夫婦・片親と子夫婦5世帯のうち4世帯までの子夫婦が50才以上である。更に、全世帯の30.2%を占める一世帯世帯をみても、夫婦のみ9世帯のうち8世帯までが60才以上の老夫婦であり、男女それぞれの単独生活者4人のうち3人が、やはり60才以上の一人暮らしの老人なのである。

以上のことからでも明らかのように、ここでは世帯の老齢化と共に老人人口の占める割合が高く、一世帯世帯をみても子女は都市部へ流出し、残っているのは老人のみである。その上、20～30才代の人口が少なく、残っている30才以上の適齢者でも大半は未婚のままである。せいぜい三世帯・四世代の世帯にあって、親から子へ、子から孫へと自然観なり、自然への対応の仕方などが伝承されていく可能性を残してはおるが、残った20～40才代の人々が農業以外の職業に従事している現状と一古老の“今の子どもは野山で遊ばなくなり、家の中にいることが多くなった”という話を鑑みると、老人たちがえた自然観なり自然への対応の仕方にしても伝承されることなく消滅もしくは伝承されるにしても大きな変化をとげていくことになるであろう。

本研究には白山自然保護調査研究会の調査費を使用した。

表3 瀬波の世帯構成 (1987年)

	世帯の性質	世帯数	%
一世帯世帯	夫婦のみ	9	30.2
	男性単独生活者	3	
	女性単独生活者	1	
	小 計	13	
二世帯世帯	夫婦と子女	7	44.2
	片親と子女	6	
	夫婦と子女と同居人	1	
	親夫婦と子女婦	1	
	片親と子女婦	3	
	親夫婦と子女婦と子のキョーダイ	1	
	小 計	19	
三世帯世帯	親夫婦と子夫婦と孫	4	20.9
	片親と子夫婦と孫	3	
	親夫婦と子夫婦と孫と子のキョーダイ	1	
	その他	1	
	小 計	9	
四世代世帯	片親と子夫婦と孫夫婦と 曾孫と孫のキョーダイ	2	4.7
	小 計	2	
	合 計	43戸	